

取組事例

(**所定外労働削減**・年休取得促進・多様な正社員・朝型の働き方・テレワーク)

企業名：徳島赤十字ひのみね総合療育センター	所在地：徳島県小松島市中田町新開 4-1
職員数：255 名	業種：医療、福祉



取組の目的：

職員の時間外労働を削減し、働きやすい職場としての魅力を最大限に活かして、働き続けられる、仕事と生活の調和のとれた職場を目指す。

取組の概要：

トップメッセージ

医療型の福祉施設として利用児者本位の視点に立ち、生命と人権を尊重した療育・福祉サービスを提供できる人材の育成と仕事と生活の調和のとれた、誰もが働きやすい職場を目指す。

概要

深夜帯勤務を行う看護師、介護福祉士、保育士が職員全体の3分の2を占めており、特に女性が多く働いている。看護部が中心となりWLBプロジェクトチームを結成、自施設で現状分析し、アクションプランを立案した。

職員の時間外労働の削減

時間外勤務の調査し、実態把握し業務を見直して、特に深夜勤務帯の時間外勤務の削減に取り組んだ。

ノー残業デー

時間外勤務の少なかった水曜日をノー残業デーと位置づけ、終われる日は終わるという風土づくりに取り組んだ。

ワークライフバランスの周知

プロジェクトチームがキャラバン隊を結成、当直看護師が、ノー残業デーには、カエルの仮装し、「早くカエル」を周知して回った。

職員に制度等の周知を徹底し、就業規則の再周知や介護休業、育児休業のパンフレットの作成・配布、研修会を実施した。

キャリアアップの支援

長期休業者への支援として、現在育児休業中の職員に職場の現状を伝える看護部だよりを作成し、定期的に職場復帰のしやすい環境に努めた。

全職員への支援として、キャリア相談窓口の設置、ポートフォリオ配布し活用を説明した。

新採用者への支援として、採用前に定期的な情報を提供し、就職しやすい環境づくりに努めた。

現状とこれまでの取組の効果：

深夜の時間外勤務の削減

- ・ 時期的に電子カルテの導入等が重なり、時間外勤務を余儀なくされる時間帯が多くあったが、僅かではあるが減少した。

ノー残業デー

- ・ 毎週水曜日のノー残業デーには、カエルに仮装した当直師長が各部署を回り、視覚的にも分かりやすい周知ができ、笑顔で帰宅できる環境ができた。

WLB に関する制度の周知

- ・ 職員の 70%以上が就業規則等（育児・介護休業）を理解できた。

キャリアアップの支援

・ キャリアアップの相談窓口設置

- ・ 職員の 70%が自己のキャリアを確認できた（ポートフォリオが活用できた）
- ・ 認定看護師へのチャレンジ、実地指導者、実習指導者へのチャレンジする者の登場、自ら昇任試験を受けるなどキャリア形成を積極的に行う者が増えた。
- ・ 休業者、新採用者への情報提供を行うことで、「所属しているという思いができた、1人の社員として認められている、必要とされていると感じた」などの意見をもらった。

他部署への影響

- ・ 他部門も帰りやすくなるきっかけとなった。

くるみんマークの認定

- ・ 日本赤十字社は次世代育成支援対策推進法に基づき、仕事と子育ての両立を図るために必要な雇用環境が認められ、2012年、2015年に認定を受けた。

今後の取組

更なる WLB の推進

- 「質の高いケアを提供」利用児者様やご家族様の満足度向上、職員の満足度向上
- 「やりがいを持って働き続けられる職場」キャリアアップ支援、生活の質の向上
- 「働きやすい職場環境」多様な勤務形態への対応、お互い様精神の熟成